ピースクラブ通信

No.85

発行　社会福祉法人　ピースクラブ
所在地　〒556-0014　大阪市浪速区大国一丁目十一番一号
連絡先　TEL　06-6647-2077
FAX　06-6647-2087
HE・Pメール　peaceclub@m01.p-c.ne.jp
http://w01.p-c.ne.jp/peaceclub/

今回はピースクラブ一階 喫茶 きじむなぁの紹介です。

知る人ぞ知る、知らん人は全然知らん穴場喫茶店なんと言っても安い！そして品質が良い！

モーニングはトースト　サラダ　果物　ゆで卵　無農薬コーヒー付きの・・・400円

日替わりランチは3種のおかずと味噌汁ごはん　栄養ボリューム満点で・・・700円

なんとごはんはおかわり自由なのです。

そしてオススメは、こだわりの材料で毎日焼きたての天然酵母ポッポのパン＋コーヒーのセットが・・・400円

こちらは一日中食べれるお得なメニュー

店内でポッポのパンやクッキー、無農薬コーヒー豆、紅茶、お茶、利用者さん達が織ったかわいいさおりの小物も販売してます。

そうそう！金曜日の夜は一般のお客様歓迎の居酒屋タイムもやっております。盛りだくさんの

喫茶きじむなぁ

知る人は是非知らん人に教えてあげて！

思い出ごはん ～魚団～

神藤 尋子

私の思い出ごはん（おかず）はなんと言っても魚団（鰯のつみれ）です。小学生の頃、父の転勤で鳥取県境港市に引っ越しました。

シティギャルから野を駆ける少女に変身したのです。文字通り野山を、海辺を突っ走り回っていました。

海はすぐ近くで波音が聞こえる程でした。

当時その辺りは地曳き網でお母さんたちが「網が引けたぞー！」と町中に触れ回り、皆で浜に駆けつけ、総出で網を曳くのです。

魚は直接魚屋さんに行き…こんな日は魚団に決まっています。

新鮮で手間暇かかったものが美味しくないはずありません。しかし、罰当たりな私は当時、お魚よりお肉が食べたかったのです。

大阪に戻ってからは魚が不味く、以来苦手になってしまいました。

今となればあの時の魚団がもう一度食べたいと思うのです。

劇的！お引越し ビフォーアフター

姫野 隼人

なんやかんや色々あって長橋ピースのご近所に引っ越すこととなりました。

決めた物件は内見のときから壁がカビカビ、床がどろどろの風呂なし木造物件。

家賃の安さと広さ、立地の良さと新品の未使用のエアコンが決め手となりました。

大家さんがカビ壁を板張りに換えてくれたのは良いものの、入居の時も相変わらずお部屋はドロドロに汚れていたのでした。完全に足の裏真っ黒くろすけでございます。

どうみても「俺ん家、おっばけや～しき！」です。

土用の暑さの中下着一枚で床に壁に強力洗剤をブッかけてはタワシでこすり、雑巾で拭いては真っ黒になったバケツの水を交換すること数十回。

ついに歩いても足の裏が黒くならなくったのでワックスをかけました。

なんということでしょう！お掃除の匠の手によってなんか今にも何か出そうなお部屋は床がツヤッと輝く住み心地の良いきれいなお部屋に生まれ変わったのです！

そこに冷蔵庫や洗濯機、テーブルやスチールラックなど、様々なものを頂いてきて、

木目を生かしたシンプルでボタニカルな空間に仕上がりました。

そこに趣味の狸の置物がつぎつぎ配置。なんということでしょう、まさに狸御殿。家具をくださった方々、修繕のためにご足労くださった方、小物を送ってくれた友達、引っ越し祝いに奢ってくれたり、いい酒をくださった方。この場を借りてお礼申し上げます。

案外僕はこの古い家の暮らしがなじんでいるようで、夕暮れには下駄を鳴らしながら銭湯に通っているのです。

フ・ツ・ウ？

橋本 雅敏

この間Eテレにて「ふつうってなに？」という平成世代の障がい者たちをパネラーに迎えた座談会的番組をやっていた。平成世代はユルくて良いな～。などと思いながらテレビを眺め「ふつうか…」ひと言。おもしろいテーマなので私なりに書いてみたい。

私が育った昭和の片田舎で「普通」とは？社会が突きつけて来る「健常者」という絶対君主様だった。私の両親は御託に漏れず、脳性マヒの私に「障害を言い訳にすな！ちゃんとせえ！」が口癖で、健常者として生きて行くことを要求した。私にとって「普通」とは？プレッシャーであり、憧れであり、諦めでしかなかった。おじいちゃんとおばあちゃんは、そのままの私を可愛がり、愛し、育ててくれた。

小学校に上がると同時に、両親は「普通」を口で歌いながら、私を施設＆養護学校に入れた。私は言葉は知らなかったけど、社会不適合だから捨てられたと思った。幼心に障害者であることを自覚した。勉強なんてムダだ。立派な障害者なんて絶対ならない。落ちこぼれ上等！だって社会不適合だから。こんな学生時代を私は送った。

卒業後、私は授産施設に入った。脳性マヒのアテトーゼ（不随意運動）野郎にライン作業なんてできない。だが粘った。私を見ると「（健常者のように）ちゃんとせえー！口答えすなぁ！可愛げがない！この穀潰しィ！」などと、不機嫌になるあの人たち（両親）と一緒に暮らすのは、まっぴら御免だ。（高等部の3年間自宅から通学）あの環境に戻りたくないその一心だった。しかしここでも「普通」は私の前に立ちはだかる。友達には恵まれた。

しかしどうにもならず、辞めて私は田舎に帰った。

一日3時間で終わるはずだった田舎での閉店後清掃のバイト、意外にも6年半続いた。このバイトのおかげで親と顔を合わせることが少なくなった。店舗出入口、ガラス一枚割れたことが、私の責任になりクビが飛んだ。ありがとうございます。私のこと最後まで庇ってくれた課長さん「俺の力不足で…すまん」と頭まで下げられた。私はただの障害者のバイトだよ。私は社会不適合のはずなのに…この環境だから最後まで頑張れた。

私の「普通」は社会が突きつけ背負わせたモンだ。それは社会からの「理不尽＝普通」であって、私の「ふつう」ではない。私の「ふつう」はなんだ？私を縛るものはここにはない。「ふつう」を探すため私は田舎を後にした。

西宮に住んでいる妖怪的重度障がい者のおっちゃん。元青い芝の会で青鬼として恐れられ、この頃まだ公安から目を付けられていた。阪神障害者解放センター代表。そんな福永のおっちゃん、ひょんなことから私はカバン持ちをすることになった。おっちゃんとのファーストコンタクトは・・・出てこい！お前出てこい！生活保護取るまでの資金30万用意せえ！といきなり吠えてきた。私はえっ？えっ？えぇぇぇ～～！だった。ここでは書けないピーなお話をおっちゃんは初対面の私に、「ピーーは！ピーでな、ピーや！」「せやからピーー！」ガッハッハッハ！「ピーーやで！」そしておっちゃんは言う「俺は俺のために戦ったんちゃう！周りのためや！周りの障害者！守るためや！」などと熱く語っていた。このおっちゃん！いったいナニモン？やっべ～～！おもしれぇ～～！私はこのおっちゃんにみせられた。おっちゃんは生活保護の取り方を教えてくれた。制度解釈の仕方を教えてくれた。知り

合いの不動産屋を紹介してくれた。保証人にまでなってくれた。おっちゃんは豪快な笑いの後「橋本！制度を勉強せえ」が口癖だった。訳のわからない制度の勉強会にいきなり同行、ほぼ週３回２時間以上みっちり、資料は膨大、えらいこっちゃ！それは…そう？勉強になった？もうお腹いっぱい。眠気との戦いだった。その真価は…私が最後に参加した県とのオールラウンド交渉の席で発揮された。舐めた態度の県職員たち、言葉にムカついたのを覚えている。私は発言の機会を貰うと、まず職員の言葉をカウンターで潰し、こちら側の制度解釈を述べ、観てきたもの、実際困ってる現場（障がい者）の話しなど、ありったけのリアルを詰め込んで打つけた。職員たちの顔色が変わった。みんな騒ぎ立ち挙がり、この日は制度を勝ち取れた。時は少し遡る。西宮に出て来た私は生活保護を受けることになった。田舎の友達に言われた言葉がある。「生活保護は最低賃金（現場）の公務員や、勉強してこい！」その言葉通りおもいっきり頑張った。私は名刺を作るため事務局次長を名乗れと福永のおっちゃんに言われた。つまりペーペーの何でも屋。おっちゃんは「作業所はお前に任せる。失敗しても構わん！好きなようにやれ！」と何もやってないザ・アジトな作業所の運営を任せられた。職員たちにも恵まれ、ヘンプアクセサリーなどを手がけ、夏場にはバザーなどでジェラート販売を行う、お洒落系作業所に徐々に変貌して行った。おっちゃん曰く「橋本！お前は運動家ちゃう！商売人や！」らしい。お掃除もやった！作業所の運営、メンバーさんの相談、職員との調整、おっちゃんのお供、そして…おっちゃんの暴走食い止め係（おっちゃんが納得いく対案を必ず用意した）私にしかできなかった。私の事務局次長が機能するまで一年以上の月日がかかった。

こんな私を周りの障害者運動家たちは大体好意的に受け入れてくれた。しかしなかには、あの新入りウザイ的な感じで、「あんたは障害者の自覚がない」運動家たちは時に（言葉に困った時かな？わかって欲しい時かな？捨てゼリフかも？ようわからん！）こんな高飛車で御門違いなことを私に打つけてきた。私は思った。それを言うのはある意味反則でしょう。あなたの障害はあなたのもの、私は知らない。あなたの「普通」を言われても私は黙るしかない。この違和感は今も残っている。私は障害者にもなれない。私の「ふつう」はなんだ？

そんなある日、福永のおっちゃんが私を見て、いつものイタズラな笑いのあと「コイツ障害者ちゃう！橋本お前はモドキや！障害者モドキ！ガッハッハッハ！モドキ！」などと、またおっちゃん、マジともお遊びとも取れるキワドいお言葉を…（笑）

私は、おっちゃん！まぁ～旨いこと言うやんと思った。障害者モドキ…いや、語路は良いが、ちょっちょっと待ちや！障害者モドキやと健常者なってまうやんか！モドキ障害者にせんとマズイ。私は健常者にはなれない。障害者にも成りきれない。なにもかもが中途半端。それでええやん！開き直れ！私の気持ちは随分と楽になれた。

「ふつう」の定義は人それぞれ、私は百万人いれば百万の「ふつう」があると思う。その「ふつう」を見つけるためモガキ学ぶ姿勢は必要だ。当たり前のようにそこにある呪縛の「普通」に囚われない力を身に付けてください。そして自分らしく生きてください。

私の「ふつう」はこれだ！現在私は家庭を持ち大阪に住んでいる。福永のおっちゃんのところは離れたけど、与太者にして物書き、モドキ障害者野郎は健在です。

「ピースぬ宝☆サトシ師匠」フォー
～ギ・家族ゲーム前編～
一番弟子キモヤンヌ

23年３月某日のこと。

皆様おはこんばんちわキモヤンヌです。

私は瓶田初男大先生に、ある衝撃的な言葉を浴びせられたのです。

「なあなあ、キモヤンヌさ～ん僕のお母ちゃんになって？」

???!!!「ハァ#?!」

突然、背後から金属バットでドヅカれたような、はたまた、鮎の塩焼き食べる時みたいに、背骨をスルッと引っこ抜かれたような、何とも言えない感情を必死に押さえ込みながら立ちすくんでしまいました。

とりあえず、お互いの年齢確認をして、私には実の娘がいることも説明し、まあそんなこと無しにしても、こんな

四天王寺の綾瀬はるかを捕まえて「お母ちゃん」はないやろう！アホッ！と丁重にお断りしたのです。（キモヤンヌ様！笑！丁重に…by与太）

実は…その頃私は、サトシ師匠のことで少し気になっていることがあったのです。

キモヤンヌは見た…それは…。

サトシ師匠と初男大先生は、本当は好き好き同志なのに、お互いに絶妙な勘違いをしては、大喧嘩を繰り返し、特にサトシ師匠が日曜日の夜、御実家から帰って来られた時、少しナーバスになっておられるので、その「勘違い大喧嘩」の負のループがより一層エスカレートしていくのです。

しかもサトシ師匠は、「怒られ芸」のためのツッコミには快く対応されるのですが、マジ怒られの対応は、まるで子供というか（サトシ師匠、失礼）わからん。とにかく唇をトンガラせて、石のように動かなくなるか、猛獣のように暴れて止められなるかの、どちらかしかないのです。

これはさすがに、ひいき目に見ても、サトシ師匠の愛されキャラクター、そして命をかけて積み上げて来られた名声をスーパー台無しにしてしまうぞ！

心底私は、サトシ師匠のことを心配して、血も凍るほど、おびえていたのです。

そこで初男大先生のあのお言葉！（初男、グッジョブ！）

私、ヒラメいたのです。

そうや！初男のお母ちゃんになったげる変わりにサトシ師匠を初男の弟という設定にしたら…。

～キモヤンヌ妄想ギ・家族劇場～

「キモ母ちゃん」これ初男！

サトシはあんたの弟やから面倒見てや、優しゅうせなアカンねんで！

「キモ母ちゃん」初男はお兄ちゃんやからな！お母ちゃんな！そんな初男が大好きやねんで！

初男　うん！キモ母ちゃん！

初男頑張るぅ！

めでたし　めでたし　チャン！

チャン！

「サトシ師匠のためなら一肌脱ぎまっせ！」

そしてこのミッションは、曲がりなりにも一応何とか、子育てをした経験が功を奏したのか？まあまあイイ感じでスタートしました。

どこまでもチャレンジャーな私はさっそく猿橋さんに「土曜日のガイド、サトシ師匠と初男大先生そしてキモヤンヌで組んで下さい」と申し出たのでした。

（笑撃の後編へ…続く）

監修　パパラッチ与太

李政美さんの歌声に酔いしれて！

大西　洋子

暑い暑い8月の23日金曜日の夜いつもの居酒屋の場所を4Fのホールに移し、満席の中で李政美さんのライブがありました。

ピアノ、バイオリン、チャング、魂に訴える音楽に酔いしれた。

いい音楽は元気が出るし、心が豊かになる。幸せでした。ありがとう。

2日後の25日、カオリーニョさんのライブで江州音頭でおどったら、体が軽くなって元気になりました。

9月はエイサーまつり（大正区で毎年行われる沖縄のイベント）。ソバを売りまくり、ビールを売りまくり一日楽しむゾ。

※※※※

マミーに脱帽！本気のドキュメンタリーに感動

ドキュメンタリー映画「マミー」。十三の第七芸術劇場で連日の満席、立見が出るくらいで、驚いている。

カレー事件の林眞須美さんのえん罪を淡々と描いている。

マスコミにおどらされて、林眞須美さんを死刑に追い込んだ25年前のことを自分にも問題があったと思わせる。

今もずっとつづくマスコミにだまされるな！監督は、身をもって真実を知ろうと、あらゆる関係者にインタビューを申し込む。

死刑、ゾッとする。世界でも少数派の死刑制度、許してはならぬ。この映画はかなり評判をよぶだろうから、来年のカンヌ映画祭に乗り込んで「死刑廃止」のプラカードを掲げ、世界から日本の野蛮さを訴えてはどうか。

カンヌツアーをするってどうかしら。今の日本の茶番のような自民党、立憲民主党の総裁選。情けない。

世界から見つめ直すってのはどうか？

毎日暑い日が続く。頭もとけそうで、何にも手がつかない。

そんな中で、ライブがあり、映画を観て、元気が出る。是非「マミー」観て下さい。

◇編集後記◇

信くんはタブレットで電車の動画をよく見ている。

新幹線だったり、京都行の快速電車だったり、大好きな京阪電車だったりする。

今日はどこかな？信くんに聞いてみる。信くんは嬉しそうに慣れた手つきでタブレットを止め、そこには小浜線普通、さすが信くん！

マニアックですなぁ～。

編集部